

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：34315
 研究種目：基盤研究(A)（一般）
 研究期間：2019～2023
 課題番号：19H00580
 研究課題名（和文）現代イスラームにおける法源学の復権と政治・経済の新動向：過激派と対峙する主流派

研究課題名（英文）Resurgent Islamic Jurisprudence and New Trends in Politics and Economics in Contemporary Islam: The Main Stream Confronting the Extreme

研究代表者
 小杉 泰（Kosugi, Yasushi）
 立命館大学・立命館アジア・日本研究機構・教授

研究者番号：50170254
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 29,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、イスラーム諸国でイスラーム法（シャリーア）の基盤たる法源学（法典解釈の方法論）が復権している意義を研究した。日本では未解明であったイスラーム法源学を体系的に整理し、イスラームにおける「法解釈」のあり方を明らかにした。また、それと比べた過激派の法解釈の恣意性を解明し、この問題を実証的に論じるために、政治と暴力・イスラーム経済・ハラール食品産業・性倫理と服装規定、について調査・考察をおこなった。政治に限らず、経済・社会生活、私的領域の分野での法解釈の論争を、中東、南アジア、東南アジアの各地域の事例研究と地域間比較を通じて考察した。今後も成果の公刊および国際発信を継続したい。

研究成果の学術的意義や社会的意義
 イスラーム世界は世界人口の4分の1を占め、その実態を解明することは日本と国際社会にとって大きな課題となっている。本研究は、現代のイスラーム復興の中核をなす「イスラーム法源学」の復権を、この学問の体系的な解析と合わせて考究し、イスラームに関する新しい知見を蓄積した。穏健派と過激派の対立についても、単に政治的な問題ではなく、イスラームの法典解釈と方法論上の対立があり、主流法学派の方法論が復権することが過激派抑制にも役立つことを解明した。それによって、イスラーム世界の固有性を理解する補助線を新しく設定できたことは大きな成果であり、「イスラーム法源学」の活用による研究推進をさらに提起していきたい。

研究成果の概要（英文）：This study investigated the significance of restoring Islamic jurisprudence (Usul al-Fiqh, or methodology of interpreting the fundamental legal sources) as the foundational knowledge of Islamic law (Shari'ah) in contemporary Islamic countries. We have systematically analyzed Usul al-Fiqh, largely unexplored in Japan so far, and clarified many aspects of the nature of "legal interpretation" in Islamic law. In order to elucidate the arbitrariness of the extremists' legal interpretation and to empirically discuss actual cases, we surveyed and discussed elaborately, politics and violence, the Islamic economy, the halal food industry, and sexual ethics. We have examined disputes over legal interpretation in politics, economy, social life, and the private sphere through case studies in the Middle East, South Asia, and Southeast Asia and through cross-regional comparisons. We continue to publish and disseminate our findings internationally.

研究分野：比較政治学、地域研究、イスラーム研究

キーワード：イスラーム法源学 イスラーム思想史の現在 主流法学派の解釈方法論 サラフィー主義 軍事の世俗化とジハード主義 ポスト資本主義とイスラーム経済 性倫理と服装規定をめぐる論争 ハラール経済・産業の拡大

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

20世紀後半からのイスラーム復興期を経た今日のイスラーム世界は、「穏健な草の根の復興」と「過激派の伸張」が同時に進行する時代を迎えており、今後、中道派・穏健派が過激派を制することができるか否かが、イスラーム世界だけでなく国際社会全体にとっての関心事となっている。穏健派が主流派を形成している国々を調査すると、イスラーム法(シャリーア)の基礎をなす法源学(法解釈の理論と方法)が強い伝統を持ち、民衆に対する法学者の影響力が復権していることがわかる。一方、過激派とは、法源学を無視して恣意的な解釈を乱発する諸集団である。穏健派と過激派の違いは暴力の是非であると考えるのは至極当然であるが、本プロジェクトでは、両者を分かち、実はより日常的な分野での論点であり、両者による支持者の奪い合いもこの「日常性についての解釈」を軸にしていると考えられる。

そこで本研究はこの仮説に基づき、これまで我が国で看過されてきたイスラーム法源学を体系的に整理したうえで、法源学を軸とする主流(穏健)派と過激派の対立を分析する。一般信徒に関わりの深い「日常性」を巡る争点を取り上げて分析することで、イスラーム法の固有の論理について新しい側面を解明し、さらに、現代社会の懸案となっている諸問題や跋扈する過激派の実態の分析に対しても新しい光を当てる。

地域研究や国際関係学では、21世紀に入ってからの過激派の隆盛によって、中東などにおける紛争やテロが深刻な問題となっている。2001年の9・11事件とアルカイダ系過激組織の拡散、2003年のイラク戦争以後の宗派(スンナ派・シーア派)対立、2014~17年のIS(「イスラーム国」)の「建国」と跋扈、これらと連動する欧米におけるテロ事件多発などは記憶に新しい。これらに対して、欧米諸国のみならずイスラーム諸国でも、テロ問題や暴力問題を「安全保障」と「治安対策」の一環と見なす傾向があり、イスラームの思想と政治・経済・社会の実態に踏み込んだ研究は乏しい。思想面の課題に対しての分析が弱い上に、いわゆる「テロ組織」の研究は、学術的な研究対象にすることが難しいため、それが研究の空白を生じせしめる一因となっている。

そうした行き詰まりを打開する鍵として、本研究では、「イスラーム法源学」というイスラーム法の歴史に根ざした学問体系に焦点を当て、「学問体系に依拠する法学者が社会的に活躍できるか、学問体系を無視する立場が優勢となって恣意的なイスラーム法の解釈が横行するかのどちらに傾くかが、穏健派と過激派の帰趨を分ける分水嶺となっている」という仮説をたて、これを核的「問い」と位置づけ、実態の究明をおこなう。

法源学に立脚する穏健派の法学者たちは、イスラーム法の法源となる聖典クルアーンやスンナ(預言者ムハンマドが確立した慣行)を参照し、法源学の解釈方法論に立脚して解釈行為をおこない、14世紀間にわたる解釈行為の蓄積を尊重した上で、現実の社会の問題に対応して、法学上の見解を出す。結論は、その法学者の役割に応じて法学裁定(ファトワー)や法規定として社会に対して公表され、影響力を持つ。

これに対して、過激派の母体となるサラフィー主義は、法源学の方法や伝統を軽視する。サラフィー主義とは、「サラフ(初期世代)」に回帰すべきという主張を意味する。それは具体的には、聖典クルアーンとスンナ(慣行)に回帰するという主張になる。ここで重要なことは、そのような主張によって彼らが法源学の理論や解釈の方法論を無視し、7~9世紀に成立した典拠の字義的な解釈や恣意的な解釈を現代に当てはめるという点である。特に、20世紀末から21世紀にかけて、サラフィー主義の中に武装闘争を第一義とする「ジハード主義者」が生まれ、彼らがイスラーム過激派の中核となり、深刻な問題が生じている。

本研究は、これらの問題の背景にある国際的かつ社会的な問題と、そのような問題の解決に寄与すべき学術の課題について、研究と考察をおこなうものである。

2. 研究の目的

本研究は、イスラーム世界を理解する上で鍵となるイスラーム法とその根幹的な学問体系である法源学に着目し、現在のイスラーム諸国で法源学に依拠する主流(穏健)派と、それを無視する少数の過激派が対立している構造を解明することを目的とする。それによって、イスラーム世界の各地でイスラーム法が社会的な実効性を再獲得していることを明確にし、法解釈の実態の解明を通じて、穏健派と過激派の決定的な違いと対立がイスラーム地域の社会にとって死活的課題となっていることを実証する。

以上の目的に基づき、次の3つの論点を設定し、それに基づいて研究を進める。これらの論点は後述の4つの重点分野の選択にも結びついている。

(1) 過去半世紀にわたるイスラーム復興の結果、イスラーム世界の各地でイスラーム法が社会的な実効性を持つものとなり、現在のイスラーム法源学の復権とそれを専門とする法学者たちの復権を生み出している。したがって、イスラーム法を理解し、イスラーム復興の実態を解明するうえで、法源学を把握することは決定的に重要である。

(2) 18~21世紀に広がったイスラーム思想のサラフィー主義は、伝統派に対するクリティーク(批判)としての意義を持った。しかし、サラフィー主義は固有の法学を樹立することに失敗し、

法解釈において字義的解釈や恣意的解釈に終始している。その帰結の一つとして、20世紀末以降は過激派のジハード主義が生まれた。

(3) イスラーム法が復興している現場は、制定法の分野というよりも、広範な私的領域や社会生活の分野であり、そこで法学の解釈も争われている。イスラーム法が統治や政治の分野に再浸透するのは人々の生活に関わる分野で影響力を強めるからであり、そこが主流派と過激派が対立・競合するアリーナとなっている。

3. 研究の方法

総合的な地域研究の視座に立ち、理論研究、原典研究、臨地研究(フィールドワーク)を結合する方法論を用いる。原典研究では、特に法源学に関わるアラビア語文献を重視する。研究会では、事例と地域間の比較、事例に基づく帰納的な一般化などを重視して、討議と検討をおこなう。また、これら原典・臨地研究・事例研究から抽出したデータを集約した「イスラーム法源学データベース」を構築して討議・検討作業の際のツールとする。

国際研究協力では、英国ダラム大学、マレーシア国民大学、インドネシア国立イスラーム大学、ヨルダンの世界イスラーム学大学などとの協力を進める。

4. 研究成果

本研究は、イスラーム諸国でイスラーム法(シャリーア)の基盤たる法源学(法典拠解釈の方法論)が復権している意義を研究した。日本では未解明であったイスラーム法源学を体系的に整理し、イスラームにおける「法解釈」のあり方を明らかにした。また、それと比べた過激派の法解釈の恣意性を解明し、この問題を実証的に論じるために、政治と暴力・イスラーム経済・ハラール食品産業・性倫理と服装規定、について調査・考察をおこなった。政治に限らず、経済・社会生活、私的領域の分野での法解釈の論争を、中東、南アジア、東南アジアの各地域の事例研究と地域間比較を通じて考察した。

研究成果の1つとして、イスラーム法の実効性を担保する上で非常に大きな役割を果たしている「法規定の5範疇」が西暦10~12世紀の間に、法源学によってきわめて明確かつ体系的に定式化されたことを発見した。「5範疇」の定式化が現代においてイスラーム復興に大きく貢献しているも明らかで、これは学術的にも重要な発見と言える。この新知見について、さらに国際的に発信する準備を進めている。

その他の成果についても、すでに、研究期間中に、国内外での学術誌で論文掲載、国内外での学会での報告、一般向け及び学術的な市販書での執筆担当などによって公表してきたが、今後も、国内外での学術誌への投稿、本プロジェクトの成果を編纂した学術的な市販書の刊行などをおこなっていく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計61件（うち査読付論文 22件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 22件）

1. 著者名 小杉泰	4. 巻 17
2. 論文標題 「イスラーム法源学の展開とシャリーアの体系化：マカーシド（法の目的）の機能と意義を中心に」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『イスラーム世界研究』	6. 最初と最後の頁 191-211
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Suechika Kota	4. 巻 13
2. 論文標題 Measuring 'state-diffusion' in post-conflict authoritarian Syria evidence from the 2021 public opinion survey	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Mediterranean Politics	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/13629395.2023.2291957	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kota Suechika (ed.)	4. 巻 20
2. 論文標題 “ Special Feature: Revisiting Islam and Politics in Egypt 's ' New Republic ' ”	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies	6. 最初と最後の頁 1-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太・山尾大	4. 巻 25
2. 論文標題 「紛争後の非リベラルな国家建設を市民はどのように認識するのか：2021年シリア世論調査結果の分析から」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『日本比較政治学会年報』	6. 最初と最後の頁 53-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根聡	4. 巻 97
2. 論文標題 「2023年のパキスタン：選挙をめぐる社会の混乱」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『国際情勢』	6. 最初と最後の頁 197-206
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 So YAMANE	4. 巻 58
2. 論文標題 “On the Idea of Symbiosis in the Poetry of Bulleh Shah, an 18th Century Punjabi Sufi Poet ”	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 91-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5356/orient.58.91	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 森伸生	4. 巻 20
2. 論文標題 「クルアーン解釈 28章1節 43節」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『シャリーア研究』	6. 最初と最後の頁 177-226
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森伸生	4. 巻 20
2. 論文標題 「イスラームにおける心の病と治療」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『シャリーア研究』	6. 最初と最後の頁 33-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長岡慎介	4. 巻 8
2. 論文標題 「イスラーム銀行の実践からみた労働理念と女性」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『イスラーム・ジェンダー・スタディーズ：労働の理念と現実』	6. 最初と最後の頁 76-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小杉泰	4. 巻 16
2. 論文標題 法源学構築のもう1つの道：ハナフィー法学派における「法学原則」の形成と「法規定の7範疇」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 イスラーム世界研究	6. 最初と最後の頁 96-115
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/282872	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太・山尾大	4. 巻 38-
2. 論文標題 「アラブの春」後のリビアにおける国家再建と民主化：2019年実施の世論調査の結果から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本中東学会年報	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24498/ajames.38.1_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 千坂知世・山尾大・末近浩太	4. 巻 64(1)
2. 論文標題 イスラーム革命防衛隊の海外派兵をめぐるイラン国民の認識：2021年サーベイ実験の結果から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 2-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24765/ajikeizai.64.1_2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Miichi Ken	4. 巻 24(1)
2. 論文標題 Indigenizing Islamism in Indonesia: Prosperous Justice Party's Approaches Towards Traditionalist Muslims	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Politics, Religion & Ideology	6. 最初と最後の頁 120-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/21567689.2023.2190893	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山根聡	4. 巻 93
2. 論文標題 2022年パキスタンにおける政権交代と国民の分断	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国際情勢紀要	6. 最初と最後の頁 143-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根聡	4. 巻 27
2. 論文標題 地域研究から地域間研究、外国学研究へ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 EXORIENTE	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 545
2. 論文標題 レバノン第20期国民議会選挙と「二大政党体制」の動揺	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 86-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 21(7)
2. 論文標題 変化の兆しを見せるレバノンの政治と経済：イスラエルとの海洋境界合意を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中東動向分析	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 1
2. 論文標題 <総説> シリアという国	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アジア・日本研究Webマガジン『アジア・マップ』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森伸生	4. 巻 15
2. 論文標題 イスラーム法的解釈と現実的対応	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 平和のための宗教	6. 最初と最後の頁 106-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森伸生	4. 巻 19
2. 論文標題 クルアーン解釈 25章25節 54節	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 シャリーア研究	6. 最初と最後の頁 100-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森伸生	4. 巻 19
2. 論文標題 クルアーン解釈 26章69節 159節	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 シャリーア研究	6. 最初と最後の頁 191-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森伸生	4. 巻 19
2. 論文標題 ハンバル学派の特徴	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 シャリーア研究	6. 最初と最後の頁 27-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小杉 泰	4. 巻 2
2. 論文標題 イスラーム法 (シャリーア) の構造的理解と現代イスラーム世界の政治・経済の新動向：イスラーム法源学を手がかりとした解析視座の確立をめざして	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館アジア・日本研究学術年報	6. 最初と最後の頁 66-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34389/ritsumeikanasiajapan.0.2_66	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小杉 泰	4. 巻 15
2. 論文標題 シャリーアの典拠における命令言辞の多様性とその法解釈 イスラーム法源学におけるテキスト解釈をめぐる考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 イスラーム世界研究	6. 最初と最後の頁 180-204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/269333	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 37-11
2. 論文標題 レバノン・ヒズブッラーの「二正面抵抗」のフレーミング：ハサン・ナスルッラー書記長演説の計量テキスト分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本中東学会年報	6. 最初と最後の頁 31-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24498/ajames.37.2_31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 15
2. 論文標題 中東政治研究におけるイスラーム主義の諸相 「方法的セキュラリズム」を超えて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 イスラーム世界研究	6. 最初と最後の頁 205-221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/269334	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 9月号
2. 論文標題 イスラーム主義とは何か：政治と宗教の関係を考える (連載「イスラーム主義を読む」(1))	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 治安フォーラム	6. 最初と最後の頁 47-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 10月号
2. 論文標題 ジハード主義とは何か：宗教と暴力の関係を考える (連載「イスラーム主義を読む」(2))	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 治安フォーラム	6. 最初と最後の頁 40-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 10月号
2. 論文標題 「文明の衝突」の正体を見極める：「イスラム教徒によるテロ事件」の構造とは	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Voice	6. 最初と最後の頁 116-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 11月号
2. 論文標題 グローバル・ジハードの虚実：脅威の正体を見極める (連載「イスラーム主義を読む」(3))	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 治安フォーラム	6. 最初と最後の頁 57-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 So YAMANE	4. 巻 11
2. 論文標題 Muslim Writers and Food in North India, 1850-1920: Nostalgia and Uneasiness	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of South Asian Studies	6. 最初と最後の頁 11-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11384/ijzas.1007	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山根 聡	4. 巻 91
2. 論文標題 2021年のパキスタンにおける対アフガニスタン外交の変化と中国の支援	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際情勢	6. 最初と最後の頁 155-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shinsuke Nagaoka	4. 巻 15
2. 論文標題 Potential of the Islamic Economy as a Post-capitalist Economic System	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 イスラーム世界研究	6. 最初と最後の頁 3-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/269323	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森 伸生	4. 巻 18
2. 論文標題 イスラームにおける天使界考 - クルアーンとハディースに基づいて -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 シャリーア研究	6. 最初と最後の頁 27-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森 伸生	4. 巻 18
2. 論文標題 クルアーン解釈 第24章第1節 10節	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 シャリーア研究	6. 最初と最後の頁 77-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森 伸生	4. 巻 18
2. 論文標題 クルアーン解釈 第25章第1節 24節	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 シャリーア研究	6. 最初と最後の頁 159-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小杉 泰	4. 巻 14
2. 論文標題 責任の体系としてのシャリーア イスラーム法源学による法規定の定式化と5範疇への収斂の構造	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 イスラーム世界研究	6. 最初と最後の頁 179-208
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/262500	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 IKEHATA Fukiko and KOSUGI Yasushi	4. 巻 14
2. 論文標題 Ijma in Islamic Law and Islamic Thought: Tradition, Contemporary Relevance, and Prospects	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 イスラーム世界研究	6. 最初と最後の頁 5-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/262489	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 540号3巻
2. 論文標題 内戦後最大の政治経済危機に直面するレバノン	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 7-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 66
2. 論文標題 「アラブの春」から10年：イスラム主義はなぜ敗北したのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 110-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根 聡	4. 巻 91
2. 論文標題 新型コロナ禍におけるパキスタン情勢から見えるもの	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際情勢	6. 最初と最後の頁 171-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根 聡	4. 巻 1
2. 論文標題 18世紀パンジャープのスーフィー詩人ブッレー・シャー(Bulleh Shah)の詩に見られる共生	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 イスラームの多文化共生の知恵 周縁イスラーム世界のスーフィズムに着目して	6. 最初と最後の頁 49-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ken Miichi	4. 巻 110(4)
2. 論文標題 Post Islamism Revisited: The Response of Indonesia's Prosperous Justice Party (PKS) to Gender Related Issues	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Muslim World	6. 最初と最後の頁 589-604
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/muwo.12367	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 見市 建	4. 巻 40
2. 論文標題 インドネシア女性ウラマー会議(KUPI) 『公式資料：過程と結果』 解題と抄訳	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 121-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 長岡慎介	4. 巻 2020年9月号
2. 論文標題 フィンテックが可能にする新しいイスラーム型SMEファイナンス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 商工金融	6. 最初と最後の頁 62-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森 伸生	4. 巻 17
2. 論文標題 クラーン解釈 第22章巡礼章第58節 78節、第23章1節 11節	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 シャリーア研究	6. 最初と最後の頁 167-204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森 伸生	4. 巻 17
2. 論文標題 タハラ論考 - 多様なイスラーム法的解釈の存在意義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 シャリーア研究	6. 最初と最後の頁 29-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小杉 泰	4. 巻 13
2. 論文標題 イスラームにおける「スンナ」の多義性とハディースとの相関性 - ハディース学および法源学から見た位置づけ -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 イスラーム世界研究	6. 最初と最後の頁 108-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/250329	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 10
2. 論文標題 シリア紛争の「宗派化」：レバノン・ヒズブッラーの軍事介入の論理と実践	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代中東の宗派問題：政治対立の「宗派化」と「新冷戦」（シリーズ 転換期の国際政治10）	6. 最初と最後の頁 129-149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 167
2. 論文標題 ヒズブッラーとイラン：1980年代初頭の中東政治の構造変容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊アラブ	6. 最初と最後の頁 9-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 Vol.18, No.9
2. 論文標題 レバノン：政治改革への一進一退	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中東動向分析	6. 最初と最後の頁 27-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山根 聡	4. 巻 90
2. 論文標題 2019年2月印パ対立からみたパキスタン情勢における軍と司法のバランス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 紀要 国際情勢	6. 最初と最後の頁 115-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 So YAMANE, Imran Akhtar	4. 巻 3
2. 論文標題 Urdu Nathar ki Zumrabandi aur 'Urdu Pan'ka Ja'iza (Lingual Categorization of Urdu Prose towards the Study of Urduiness' (1775 to 1850)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 外国語教育のフロンティア	6. 最初と最後の頁 41-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 山根 聡、岩下明裕ほか編	4. 巻 -
2. 論文標題 南アジア	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代地政学事典	6. 最初と最後の頁 634-635
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miichi Ken	4. 巻 27
2. 論文標題 Urban Sufi and politics in contemporary Indonesia: the role of dhikr associations in the anti- 'Ahok' rallies	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 South East Asia Research	6. 最初と最後の頁 225-237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/0967828X.2019.1667110	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miichi Ken, Kayane Yuka	4. 巻 -
2. 論文標題 The Politics of Religious Pluralism in Indonesia: The Shi'a Response to the Sampang Incidents of 2011?12	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 TRaNS: Trans -Regional and -National Studies of Southeast Asia	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/trn.2019.12	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 見市 建	4. 巻 921
2. 論文標題 インドネシア大統領選：「社会の分断」と民主主義の緩慢な後退	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 31-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 見市 建	4. 巻 -
2. 論文標題 宗教	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 川中豪・川村晃一編『教養の東南アジア現代史』	6. 最初と最後の頁 177-195
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森 伸生	4. 巻 11.12
2. 論文標題 東京オリンピックへ向けた国内外のハラール状況	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 海外事情	6. 最初と最後の頁 72-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森 伸生	4. 巻 16
2. 論文標題 社会の安定と人々の共生のためにイスラーム理念の体現	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 シャリーア研究	6. 最初と最後の頁 27-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森 伸生	4. 巻 16
2. 論文標題 クルアーン解釈 第20章ター・ハー章第99節～135節	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 シャリーア研究	6. 最初と最後の頁 67-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計92件 (うち招待講演 14件 / うち国際学会 39件)

1. 発表者名 Yasushi Kosugi
2. 発表標題 "Halal Economic Thinking and the Contribution of Resurgent Islamic Jurisprudence towards New Phases of Islamic Economic Developments: Reflections from Asia"
3. 学会等名 International Conference on Islamic and Halal Economic Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yasushi Kosugi
2. 発表標題 "Arabic Resurgence and Islamic Jurisprudence of New Issues (Nawazil and Mustajiddat) in the Era of Digitalization and Internet"
3. 学会等名 Asia Pacific Conference 2023, at Ritsumeikan Asia Pacific University
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小杉泰
2. 発表標題 「地域研究における知的生産と価値創造は、いかにして可能か：生成AI革命の時代に、イスラーム法源学研究の立場から」
3. 学会等名 公開シンポジウム「中東・イスラーム研究の新潮流：変容と危機の時代を考える」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小杉泰
2. 発表標題 「イスラーム法源学の復権と21世紀におけるイスラーム潮流の競合：解析と眺望」
3. 学会等名 イスラーム法研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kota Suechika
2. 発表標題 “ Political Communication Strategy of Lebanese Hezbollah under Political Crises: A Quantitative Text Analysis of al-Manar Channel ”
3. 学会等名 The 25th Mediterranean Studies Association Annual International Congress (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kota Suechika
2. 発表標題 “ Contested Statehood in Post-conflict Authoritarian Syria: A Quantitative Analysis of the 2021 Public Opinion Survey ”
3. 学会等名 The IPSA 27th World Congress of Political Science (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kota Suechika
2. 発表標題 “ Lebanese Hezbollah ’s Political Communication Strategy in Consociational Democracy, 2016-2020: A Quantitative Text Analysis of Al-Manar ”
3. 学会等名 The 8th International Forum on Asia and the Middle East (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kota Suechika
2. 発表標題 “Reconsidering ‘State-Diffusion’ in Jordan: Evidence from a List Experiment Survey”
3. 学会等名 Middle East Studies Association (MESA), The 57th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 末近浩太
2. 発表標題 「『武装穏健派』とは何か：武力行使をめぐるイスラーム法解釈」
3. 学会等名 イスラーム政治研究会「政治と暴力」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山根聡
2. 発表標題 「教養と娯楽：雑誌『女性の声』（デリー）の内容から見えるムスリム女性のたしなみ」
3. 学会等名 日本南アジア学会第35回全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山根聡
2. 発表標題 「居住空間『ハヴェーリー』について」
3. 学会等名 環インド洋地域研究 特別研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山根聡
2. 発表標題 「パキスタンのシャリーア法廷について：設置、機能、争点について」
3. 学会等名 イスラーム法研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Shinsuke Nagaoka
2. 発表標題 "Islamic Economy and Post-Capitalism: A New Moral Economy Envisioned by the Revival of Waqf"
3. 学会等名 International Conference on Islamic and Halal Economic Studies (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長岡慎介
2. 発表標題 「ポスト資本主義論のフロンティアとイスラーム経済」
3. 学会等名 イスラーム経済・ハラール産業研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 森伸生
2. 発表標題 「ハラール認証規格とシャリーア対応：ハラール認証現場から」
3. 学会等名 イスラーム経済・ハラール産業研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 森伸生
2. 発表標題 「イスラームの食規範とハラール認証状況」
3. 学会等名 世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Ken Miichi
2. 発表標題 "Religio-Political Ideology and Gendered Cyberspace Discourse in Indonesia, Crime, Justice, and Digital Security in the Pandemic Era and Beyond: Local & Global Issues"
3. 学会等名 Universitas Indonesia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 見市建
2. 発表標題 「インドネシアにおける性倫理をめぐる議論：反フェミニストに注目して」
3. 学会等名 イスラーム法研究会「性倫理と服装規定」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yasushi KOSUGI
2. 発表標題 Islamic Construction of Rulings on Biological Death, Funerals, Burials, Life in the Grave, and the Afterlife: Mainstream Jurisprudence vs. Salafism
3. 学会等名 20th Asia Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yasushi KOSUGI
2. 発表標題 Revival of Islamic Jurisprudence and the Philosophy of a Halal Life: Prospects of Halal Economic and Social Activities toward a Sustainable Future
3. 学会等名 International Colloquium on Islamic and Halal Economic Studies: Towards a New Horizon in the Post-COVID Era (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kota SUECHIKA
2. 発表標題 Nation/state-building and Democratization of the Post-Arab Spring Libya: An Analysis of the 2019 Survey
3. 学会等名 24th Mediterranean Studies Association Annual International Congress (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kota SUECHIKA and Dai YAMAOKA
2. 発表標題 How Do Syrians Perceive Roles of the Resurgent Assad Regime in the Post-Conflict Period?: An Analysis of the 2021 Public Opinion Survey
3. 学会等名 International Conference on Humanitarian Narratives and Interventions from the Contemporary Middle East (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 So YAMANE
2. 発表標題 Khomeini's Letter to Maududi: Islamist Thought Connected by Translation
3. 学会等名 Imperial Rule and Resistance in the Long Twentieth Century (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sinsuke NAGAOKA
2. 発表標題 Toward a Comparative Analysis of 'Mobility' in Economic Institutions: An Inquiry from Islamic Economic Studies
3. 学会等名 International Colloquium on Islamic and Halal Economic Studies: Towards New Horizons in the Post-Covid Era (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小杉泰
2. 発表標題 イスラーム文明の特質と現代における文明復興
3. 学会等名 文明構造の転換と日本の戦略研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小杉泰
2. 発表標題 宗教から考える人類文明と現代イスラーム
3. 学会等名 立命館西園寺塾 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 未近浩太
2. 発表標題 『現代シリアの国家変容とイスラーム』再訪：地域研究の拡張・発展に向けて
3. 学会等名 AJI Book Club「著者は語る」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 末近浩太
2. 発表標題 歴史的シリア（シャーム）研究の新たな挑戦：ロンドンからの眺望
3. 学会等名 公開シンポジウム「中東・イスラーム研究の新たな挑戦：コロナ危機を超えて」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 末近浩太
2. 発表標題 混迷の続く中東情勢を展望する
3. 学会等名 435回 時事通信ロンドン・トップセミナー（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 末近浩太
2. 発表標題 中東を脱神話化する：異文化理解と情勢分析のあいだで
3. 学会等名 立命館西園寺塾（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山根聡
2. 発表標題 パキスタンの言語事情とウルドゥー文学の歴史
3. 学会等名 36回「シンポジウム・パーキスターン2022 ウルドゥー語の世界」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山根聡
2. 発表標題 19世紀後半のウルドゥー語資料に見る文学空間と宗教 - 牝牛保護運動のマスナヴィー
3. 学会等名 イスラーム穏健派研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 長岡慎介
2. 発表標題 アジア・アフリカから考える資本主義の未来
3. 学会等名 5回日立京大ラボ・京都大学シンポジウム「創造的市民による社会づくりとWellbeingの実現」(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 森伸生
2. 発表標題 イスラームの倫理道德規範に想う
3. 学会等名 平和研究所研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小杉 泰
2. 発表標題 イスラーム法源学におけるアラビア語学の役割と法解釈上の意義
3. 学会等名 イスラーム法研究会「アラビア語とイスラーム法」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小杉 泰
2. 発表標題 穩健主流派の苦闘とその展望：ウスール（法源学）派を中心に
3. 学会等名 20年目の9.11を超えて：グローバル社会、イスラーム世界、ポスト・テロ時代を眺望する
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yasushi Kosugi
2. 発表標題 DX (Digital Transformation) of our Research under the COVID-19 Pandemic: Towards the Islamic Civilizational Renewal, the Reformulation of the Ummah, and Resurgent Islamic Jurisprudence
3. 学会等名 11th International Symposium on Islam, Civilization and Science (ISICAS 2021), Universiti Kebangsaan Malaysia (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yasushi Kosugi
2. 発表標題 Why the Classical Texts Matter Today: Islamic Jurisprudence in Response to the Needs of Modern Muslim Communities
3. 学会等名 19th Asia Pacific Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University, Beppu (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小杉 泰
2. 発表標題 イスラーム法源学におけるキヤースの位置付けと法規定の導出法
3. 学会等名 イスラーム法研究会「法源学とアラビア語学におけるキヤース（類推）をめぐって」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kota Suechica
2. 発表標題 Critical Geopolitics of the Syrian Conflict: The Territorial Partitions of Bilad al-Sham and Beyond, Panel 6B “Critical Perspectives on Eastern Mediterranean Security,”
3. 学会等名 The 23rd Mediterranean Studies Association Annual International Congress, University of Gibraltar, GIBRALTAR (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kota Suechica
2. 発表標題 Israeli Zionists or Syrian Takfiris: A Quantitative Analysis of Hezbollah's Framing of Resistance, Panel RC42.04 “Evolving Methodologies in the Study of Middle East Politics”
3. 学会等名 The IPSA 26th World Congress of Political Science, “New Nationalisms in an Open World,” Lisbon, PORTUGAL (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kota Suechica
2. 発表標題 Hezbollah's Framing of the Two-front Resistance: A Quantitative Analysis of Hasan Nasrallah's Speeches, P6596 “Armed Non-State Actors and their Quest for Legitimacy”
3. 学会等名 Middle East Studies Association (MESA), The 55th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 未近浩太、米田優作
2. 発表標題 「イスラーム主義」を問い直す：中東・イスラーム世界における政教関係の動態的把握に向けて
3. 学会等名 政治研究会「現代イスラーム政治と宗教をめぐる視角と枠組み」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山根 聡
2. 発表標題 ターリバーンの25年
3. 学会等名 ターリバーン政権復活をめぐる利益と不利益
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山根 聡
2. 発表標題 アフガニスタン政権の失敗とターリバーンの再拡大
3. 学会等名 緊急ウェビナー「緊迫するアフガニスタン情勢」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山根 聡
2. 発表標題 9.11がもたらしたパキスタンの社会変容と南アジア域内情勢の流動化
3. 学会等名 20年目の9.11を超えて：グローバル社会、イスラーム世界、ポスト・テロ時代を眺望する
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山根 聡
2. 発表標題 南アジアの思想潮流とターリバーン
3. 学会等名 現代ムスリム知識人の変容と交流
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山根 聡
2. 発表標題 パキスタン社会のターリバーン政権へのまなざし：域内関係における新たなコネクティビティとイスラーム
3. 学会等名 思想と戦略にみるコネクティビティ：パキスタン、アフガニスタンとシリアの事例から
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 So YAMANE
2. 発表標題 Ijtimaai Zahaanat men Urdu kaa Kirdaar (集团的知性におけるウルドゥー文学の役割)
3. 学会等名 International Conference on the Role of Urdu (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山根 聡
2. 発表標題 18世紀バンジャープにおける諸宗教の交差
3. 学会等名 RINDAS 総括シンポジウム「南アジアの思想と価値の基層的变化」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 So YAMANE
2. 発表標題 National Cricket Hero Wears White Hat- How Pakistani Politics Create a New Leader
3. 学会等名 International Conference Populism, Diversity, and 'Enemies of the People': 'Politics' and Society in South Asia in the Twenty-First Century (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ken Miichi
2. 発表標題 The Indonesian Feminists' Networking and Strategy: a Case Study of the 2019 Marriage Law Revision
3. 学会等名 The 12th International Convention of Asia Scholars (ICAS) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shinsuke Nagaoka
2. 発表標題 Mobility in the Islamic Economy: Its Historical Experience and Post-Capitalist Potentials
3. 学会等名 FFJ-CNRS Webinair Series: Understanding Religious Dynamics in Economy: A French-Japanese Perspective on Islamic (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shinsuke Nagaoka
2. 発表標題 Mobility in the Islamic Economy: Its Potential for Application in Post-Capitalist Society
3. 学会等名 11th International Symposium on Islamic Civilization and Science (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長岡慎介
2. 発表標題 接近するポスト資本主義とイスラーム経済
3. 学会等名 NIHU現代中東地域研究シンポジウム「現代中東理解のための5つの視角」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長岡慎介
2. 発表標題 イスラーム経済から考える利己と利他
3. 学会等名 シンポジウム「中東・イスラーム研究の課題と展望　ポストコロナ時代にむけて」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 長岡慎介
2. 発表標題 中東・イスラーム世界から始まる新しい経済の息吹
3. 学会等名 公開講演会「北陸で学ぶ中東の政治・宗教・社会」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小杉 泰
2. 発表標題 軍事と戦争の政教分離とイスラーム復興：法源学研究の観点から
3. 学会等名 政治研究会「政治と暴力」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小杉 泰・池端蒞子
2. 発表標題 ジャマア／イジュマア論をめぐって：スンナ派イスラームにおける多数派主義とその表現方法の変遷
3. 学会等名 イスラーム法研究会「イジュマア論の現代的地平」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yasushi KOSUGI
2. 発表標題 Resurgent Islamic Jurisprudence and an Alternative Path of Development
3. 学会等名 18th Asia Pacific Conference
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小杉 泰
2. 発表標題 中東・イスラーム研究におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）の次段階へ向けて：法源学データベースの戦略を事例として
3. 学会等名 公開シンポジウム「中東・イスラーム研究の新地平 ウィズコロナ時代のチャレンジ」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小杉 泰
2. 発表標題 サラフとサラフィー主義（サラフィーヤ）の名づけとその系譜
3. 学会等名 イスラーム法研究会「サラファイヤ主義とは何か」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小杉 泰
2. 発表標題 イスラームの性倫理とは何か：シャリーアの法益（マカーサイド）論から
3. 学会等名 イスラーム法研究会「現代イスラーム・ジェンダー・性倫理をめぐる視座と論点整理」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 末近浩太
2. 発表標題 中東の紛争（発生・継続・終焉）をどのように分析すべきか
3. 学会等名 イスラーム政治研究会「政治と暴力」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kota Suechika
2. 発表標題 Syria, JCP0A and the New US Administration
3. 学会等名 The 8th IPIS-SPF Joint Roundtable, Webinar “Regional and International Issues”（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 末近浩太
2. 発表標題 変動する湾岸情勢と日本：危機の時代を展望する
3. 学会等名 イラン・イラク戦争から40年・湾岸危機／湾岸戦争から30年・公開シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ken Miichi
2. 発表標題 Prospek Pemerintah PM Suga
3. 学会等名 Re-Orient Webinar Series, Director for East Asian and Pacific Affairs, Ministry of Foreign Affairs of the Republic of Indonesia（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ken Miichi
2. 発表標題 Studi Islam dan Politik di Indonesia pada Era Polarisasi
3. 学会等名 Peran Umat Islam Indonesia dalam Pembangunan Sumber Daya Manusia Unggul Menuju Indonesia Emas 2045 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ken Miichi
2. 発表標題 Is Madura unique?: Examining through elections
3. 学会等名 International Conference on Islamic Studies (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ken Miichi
2. 発表標題 Post Islamism Revisited: The Response of Indonesia's Prosperous Justice Party (PKS) to Gender Related Issues
3. 学会等名 Islam and Diversity in Contemporary Indonesia: Belief, Gender, and Politics (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 見市 建
2. 発表標題 インドネシアにおけるジェンダーの政治研究試論
3. 学会等名 イスラーム法研究会 「現代イスラーム・ジェンダー・性倫理をめぐる視座と論点整理」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長岡慎介
2. 発表標題 資本主義の危機とイスラーム経済の挑戦
3. 学会等名 日本オリエント学会 / 同志社大学一神教センター公開講演会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森 伸生
2. 発表標題 ハラール認証製品のハラール性維持に関する考察
3. 学会等名 イスラーム経済・ハラール産業研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小杉 泰
2. 発表標題 シャリーアとイスラーム法学の体系化過程とその法源学な構造をめぐって：今日のイスラーム法復興と主流化・過激化の解析へ向けて
3. 学会等名 「現代イスラームにおける法源学 の復権と政治・経済の新動向：過激派と対峙する主流派」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasushi KOSUGI
2. 発表標題 Towards a Trialogue between Civilizations: Asian and Japanese Engagement with the Islamic World
3. 学会等名 International Conference of "Inter-Civilizational Dialogue" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasushi KOSUGI
2. 発表標題 Hadith Studies Renewal Through Informatics and Resurgent Islamic Jurisprudence: How Can They Contribute to Contemporary Islamic Economic Thought?
3. 学会等名 Kyoto-Durham International Workshop Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics and Finance (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yasushi KOSUGI
2. 発表標題 A Success Brings More Challenges: Next Steps in Islamic Economic Studies and Resurgent Islamic Jurisprudence
3. 学会等名 International Symposium on Islam, Civilization and Science (ISICAS 2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小杉 泰
2. 発表標題 宗教をめぐる新しい布置図とイスラーム法源学の復権
3. 学会等名 立命館大学アジア・日本研究所、中東・イスラーム研究センター他、共催シンポジウム「現代イスラーム世界を眺望する 研究の最前線 -」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yasushi KOSUGI
2. 発表標題 The Islamic Revival, Islamic Economic Studies, and Halal Studies: Research Strategies and Prospects in Japan
3. 学会等名 International Workshop on the Impact of Finance in Islamic Tourism (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yasushi KOSUGI
2. 発表標題 The Pursuit of Islamic Economic Studies in Japan and in the Global Society: Objectives and Strategies for Knowledge Generation
3. 学会等名 International Workshop on Waqf Revitalization (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kota Suechika
2. 発表標題 Diffusion and Convergence of Statehood in Syria under Conflict: The 2017 Social Survey Analysis
3. 学会等名 The 22nd Mediterranean Studies Association Annual International Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kota Suechika
2. 発表標題 Social Disorder, Purged Islamist, and Dysfunctional Humanitarian Intervention over the Arab Authoritarianism: The Case of the Muslim Brotherhood Movements in the 2010s
3. 学会等名 Panel TB15 "How Authoritarianism Endures," CEEISA-ISA 2019 Joint International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kota Suechika
2. 発表標題 Reconsidering the State-Convergence Thesis in Syria under Conflict: A Poll Survey Data Analysis
3. 学会等名 Panel FD01 "Actors, International Security and Intelligence Education," ISA International Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 末近浩太
2. 発表標題 中東政治研究におけるイスラーム主義：逸脱事例・パラドクス・選択バイアス
3. 学会等名 日本国際政治学会2019年度研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山根 聡
2. 発表標題 南アジア・イスラーム復興思想の拡散に見る翻訳活動
3. 学会等名 現代中東地域研究次世代共同研究会2019年度第1回「現代ムスリム知識人の地域横断ネットワークに関する研究 ウズベキスタン・シリア・リビアのウラマー・スーフィーの交流を中心に（招待講演）」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山根 聡
2. 発表標題 カシミール問題を発端とする国際情勢とパキスタンの現状
3. 学会等名 中東情勢研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 So YAMANE
2. 発表標題 Japan men Urdu Zaban ki Ta'lim ki Mukhtasar Tarikh (日本におけるウルドゥー語教育の歴史)
3. 学会等名 第12回国際ウルドゥー会議（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 So YAMANE
2. 発表標題 Japan men Panjabi Zaban o Adab ki Tadris ki Mukhtasar Tarikh (日本におけるパンジャービー語とその文学の研究史)
3. 学会等名 国際パンジャービー研究セミナー(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 見市 建
2. 発表標題 インドネシアにおけるIS台頭のパラドックス：分裂と国内政治への参与
3. 学会等名 東南アジア学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinsuke Nagaoka
2. 発表標題 Islamic Finance in Global History: Toward Comparative Studies of the History of Interest
3. 学会等名 Kyoto-Durham International Workshop in Islamic Economics and Finance New Horizons in Islamic Economic (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinsuke Nagaoka
2. 発表標題 Islamic Economics Coming Back to Adam Smith? The Future of Capitalism from an Islamic Perspective
3. 学会等名 International Symposium on Islam, Civilization and Science (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinsuke Nagaoka
2. 発表標題 Revitalization of Waqf and its Potential to Design a Post-Capitalist Economy
3. 学会等名 International Workshop on Waqf Revitalization (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計33件

1. 著者名 森伸生、堀抜功二、佐藤麻理絵、渡邊駿	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 259
3. 書名 中村覚監修・編『君主制諸国』	

1. 著者名 Yasushi KOSUGI et al.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Beacon Books and Media	5. 総ページ数 432
3. 書名 Khairudin Aljunied ed. Knowledge, Tradition and Civilization: Essays in Honour of Professor Osman Bakar	

1. 著者名 Ken Miichi	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Alif.id	5. 総ページ数 437
3. 書名 Ideologi dan Gerakan Politik Islam di Indonesia	

1. 著者名 山根聡	4. 発行年 2022年
2. 出版社 臺灣商務印書館	5. 総ページ数 -
3. 書名 イク巴勒の倫敦	

1. 著者名 山根聡、長岡慎介、見市建	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 748
3. 書名 イスラーム文化事典編集委員会編『イスラーム文化事典』	

1. 著者名 山根聡、長岡慎介	4. 発行年 2023年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 292
3. 書名 黒木英充・後藤絵美編『イスラーム信頼学へのいざない(イスラームからつなく1)』	

1. 著者名 山根聡	4. 発行年 2023年
2. 出版社 NHK文化出版	5. 総ページ数 320
3. 書名 『NHKデータブック 世界の放送2023』	

1. 著者名 山根聡	4. 発行年 2023年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 840
3. 書名 姜尚中・青山 亨ほか編『アジア人物史10 民族解放の夢』	

1. 著者名 見市建	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 404
3. 書名 久志本裕子・野中葉編『東南アジアのイスラームを知るための64章』	

1. 著者名 ガーズィー・ビン・ムハンマド著、小杉泰・池端蒔子訳	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 512
3. 書名 現代人のためのイスラーム入門：クルアーンからその真髄を解き明かす12章	

1. 著者名 小杉 泰	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中東調査会	5. 総ページ数 114
3. 書名 『中東研究』第542号	

1. 著者名 小杉泰・末近浩太・長岡慎介ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 392
3. 書名 西尾哲夫・東長靖編著『中東・イスラーム世界への30の扉』	

1. 著者名 末近浩太	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 264
3. 書名 今井宏平編著『教養としての中東政治』	

1. 著者名 末近浩太ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 312
3. 書名 足立研幾・板木雅彦・白戸圭一・鳥山純子・南野泰義編『プライマリー国際関係学』	

1. 著者名 末近浩太	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 392
3. 書名 西尾哲夫・東長靖編著『中東・イスラーム世界への30の扉』	

1. 著者名 山根 聡、前田耕作	4. 発行年 2021年
2. 出版社 河出書房新社	5. 総ページ数 264
3. 書名 新版 アフガニスタン史	

1. 著者名 山根 聡	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 416
3. 書名 前田耕作編著『アフガニスタンを知るための70章』	

1. 著者名 末近浩太	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房（ちくま新書）	5. 総ページ数 336
3. 書名 中東政治入門	

1. 著者名 Kota Suechika (co-authored with Keiko Sakai)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 684
3. 書名 “Sectarian Fault Lines in the Middle East: Sources of Conflicts or Communal Bonds?,” Larbi Sadiki ed., Routledge Handbook of Middle East Politics	

1. 著者名 末近浩太・遠藤貢編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 272
3. 書名 紛争が変える国家 (シリーズ「グローバル関係学」第4巻)	

1. 著者名 末近浩太編・中村覚監修	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 276
3. 書名 シリア・レバノン・イラク・イラン (シリーズ「中東政治研究の最前線」第2巻)	

1. 著者名 末近浩太	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 826
3. 書名 「ジハード主義の系譜」鈴木董・近藤二郎・赤堀雅幸編集代表『中東・オリエント文化事典』	

1. 著者名 山根 聡	4. 発行年 2021年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 315
3. 書名 データブック 世界の放送	

1. 著者名 見市 建	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本貿易振興機構アジア経済研究所	5. 総ページ数 306
3. 書名 「ジェンダーの政治と大統領選挙 分極化の犠牲となった性暴力排除法案」川村晃一編『2019年インドネシアの選挙 深まる社会の分離とジョコウィの再選』	

1. 著者名 長岡慎介	4. 発行年 2020年
2. 出版社 詩想舎	5. 総ページ数 130
3. 書名 資本主義の未来と現代イスラーム経済（上）	

1. 著者名 長岡慎介	4. 発行年 2020年
2. 出版社 詩想舎	5. 総ページ数 148
3. 書名 資本主義の未来と現代イスラーム経済（下）	

1. 著者名 Shinsuke Nagaoka, Zurina Shafii, Ai Kawamura	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Kyoto University Islamic Economic Studies Project (KUISES)	5. 総ページ数 114
3. 書名 The Development of Institutional Frameworks of Islamic Economy: A Historical Experience and New Initiatives in Malaysia	

1. 著者名 Shinsuke Nagaoka, Zeyneb Hafsa Orhan, Harun SencaI	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Kyoto University Islamic Economic Studies Project (KUISES)	5. 総ページ数 81
3. 書名 Islam ve Kapitalizm: Kursesi Bir Bakis Acisi ve Turkiye Perspektifleri	

1. 著者名 Shinsuke Nagaoka, Bochra Kammarti, Yana Pak, Mayuko Yamamoto	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Kyoto University Islamic Economic Studies Project (KUISES)	5. 総ページ数 124
3. 書名 Evolution des pratiques socio-economiques islamiques en Asie et en Europe	

1. 著者名 小杉 泰 (編訳)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 702
3. 書名 ムハンマドのことば ハディース	

1. 著者名 未近浩太、酒井啓子 (編著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 282
3. 書名 現代中東の宗派問題：政治対立の「宗派化」と「新冷戦」(シリーズ 転換期の国際政治10)	

1. 著者名 見市 建、茅根由佳（編著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 176
3. 書名 ソーシャルメディア時代の東南アジア政治	

1. 著者名 Shinsuke Nagaoka, Mari Adachi, Nur Izzati Binti Mohamad Norzilan	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Hadhari Center for Islamic Civilizational Studies at Kyoto University	5. 総ページ数 68
3. 書名 New Waves of Islamic Social Welfare in Southeast Asia	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	見市 建 (Miichi Ken) (10457749)	早稲田大学・国際学院 (アジア太平洋研究科)・教授 (32689)	
研究分担者	森 伸生 (Mori Nobuo) (20349202)	拓殖大学・付置研究所・イスラーム研究所長 (32638)	
研究分担者	長岡 慎介 (Nagaoka Shinsuke) (20611198)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	末近 浩太 (Suechika Kota) (70434701)	立命館大学・国際関係学部・教授 (34315)	
研究分担者	山根 聡 (Yamane So) (80283836)	大阪大学・大学院人文学研究科（外国学専攻、日本学専攻）・教授 (14401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計5件

国際研究集会 International Conference on Islamic and Halal Economic Studies	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 International Colloquium on Islamic and Halal Economic Studies: Towards New Horizons in the Post-Covid Era	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Kyoto-Durham International Workshop Islamic Economics and Finance: New Horizons in Islamic Economics and Finance	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 International Symposium on Islam, Civilization and Science (ISICAS 2019)	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 International Workshop on the Impact of Finance in Islamic Tourism	開催年 2020年～2020年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関